

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	盛岡城跡石垣修復工事・変位測量委託事務事業			事業コード	0919
所属コード	204500	課等名	歴史文化課	係名	
課長名	袖上 寛	担当者名	三浦陽一	内線番号	7355
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード	5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード	1
予算費目名	一般会計 10 款 6 項 1 目 盛岡城跡保存整備事業 (004-02)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 59 年度
根拠法令等	文化財保護法			

(2) 事務事業の概要

国指定史跡盛岡城跡の石垣の変位調査や現況調査を継続的におこない、必要に応じて整備事業に先行する発掘調査を実施する。

また、史跡及び都市公園としての機能を勘案しながら、案内表示や説明板、パンフレットを作成する等のソフト事業を展開していく。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

築城以来、約 400 年を経た石垣の損傷が著しく、積み直しの必要が生じたため、国及び県の指導の下、昭和 59 年度から修復工事に着手している。

併せて昭和 60 年度から平成 10 年度まで石垣移動量調査を実施し、平成 11 年度からは石垣変位調査を、石垣の現況把握のため石垣基礎調査（カルテ作成）を平成 23 年度から継続している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

地震等により石垣の損傷が進行し、崩落の危険度が高まっている。特に、平成 23 年 3 月及び 4 月の東北地方太平洋沖地震及びその余震により、間詰石の落下、孕みの増大等が確認されていることから、石垣の本質的な価値を保全しながら、来跡者の安全確保を図るための措置が必要となっている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

国指定史跡盛岡城跡

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実 績	24 年度 実 績	25 年度 実 績	26 年度 計 画	26 年度 実 績
A 石垣面積	m ²	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
B						
C						

（3）25 年度に実施した主な活動・手順

石垣変位調査（業務委託）

石垣基礎調査（業務委託）

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実 績	24 年度 実 績	25 年度 実 績	26 年度 計 画	26 年度 実 績
A 石垣修復工事面積	m ²	0	0	0	0	0
B 石垣変位調査地区	地区	8	8	8	8	8
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

石垣崩落危険の除去

石垣の保護保全

「お城を中心としたまちづくり」の基幹となる史跡盛岡城跡の保存活用

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実 績	24 年度 実 績	25 年度 実 績	26 年度 計 画	26 年度 実 績
A 石垣修復率 （修復完了累積面積/石垣総面積）	■上げる □下げる ■維持	%	34.4	34.4	34.4	34.4	34.4
B 石垣変位調査箇所設置率 （変位調査設置地点数/必要箇所）	□上げる □下げる ■維持	%	100	100	100	100	100
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実 績	24 年度 実 績	25 年度 実 績	26 年度 計 画	26 年度 実 績
事業費	①国	千円	1,000	983	975	1,000	861
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,046	1,092	1,037	1,088	939
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	2,046	2,075	2,012	2,088	1,800
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	600	600	600	600	600
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
計	トータルコスト A+B	千円	4,446	4,475	4,412	4,488	4,200
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

国指定史跡の保存整備事業である。

② 市の関与の妥当性

史跡所有者及び管理者は盛岡市である。

③ 対象の妥当性

史跡そのものが対象であり，妥当である。

④ 廃止・休止の影響

石垣崩落の危険度が高まる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

先端技術・機器の導入により，より精緻かつ効率的な調査が可能となる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

国民全体が受益対象であり，特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

先端技術・機器の導入により，より精緻かつ効率的な調査が可能となる。

併せて，人件費の削減にも繋がる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）改革改善の方向性

先端技術・機器の導入により、より精緻かつ正確な変位調査及び基礎調査を行い、適正な事業計画を立案する。

（2）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

盛岡城跡は、お城を中心としたまちづくりの中核であり、中心市街地活性化の要との位置付けから、各種整備事業の進捗が、賑わいの創出に寄与するものとして大きな期待が寄せられている。

石垣の損傷は、崩落の危険性に、史跡・公園としての機能や景観の面からマイナスイメージとなり、来跡（園）者及び観光客の減少につながるものである。

これまでの石垣変位調査結果から、石垣の損傷や孕みが進行していることが確認されていることから、史跡の保全と利用者の安全確保の面から、歴史的価値の保全を図りながら、修復工事を進める必要である。

事業を進める上では、盛岡城跡公園（岩手公園）の整備事業及び維持管理を進めている公園みどり課との連携が不可欠である。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

石垣の変位調査、基礎調査支援業務を予定どおり実施した。

盛岡城跡は、盛岡のまちづくりの原点であるとともに、次世代に引き継ぐ歴史的遺産として、石垣等の調査を継続するとともに、適切な保存管理を行っていく。

なお、平成 28 年度の石垣修復工事に向けて発掘調査も実施することとしている。